

常滑市立保育園・こども園再編計画【概要版】

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の背景・目的

- 市内における子どもの人数が地域間で顕著に較差が生じてきたことなどから、2009(平成21)年に策定した「常滑市幼・保育園の再編等計画」により、2011(平成23)年度から公立園の集約化を図るとともに、民間活力の導入を進めてきた。
- 近年、就学前児童の急激な減少に伴い、入所児童数の少ない園が出てきている。
- このような状況を踏まえ、本市における保育環境を見直すとともに、現状に即した園児の定員数や保育士の配置などについて、今後の方向性を定め、将来にわたり安定的な教育・保育サービスの提供体制を図る。

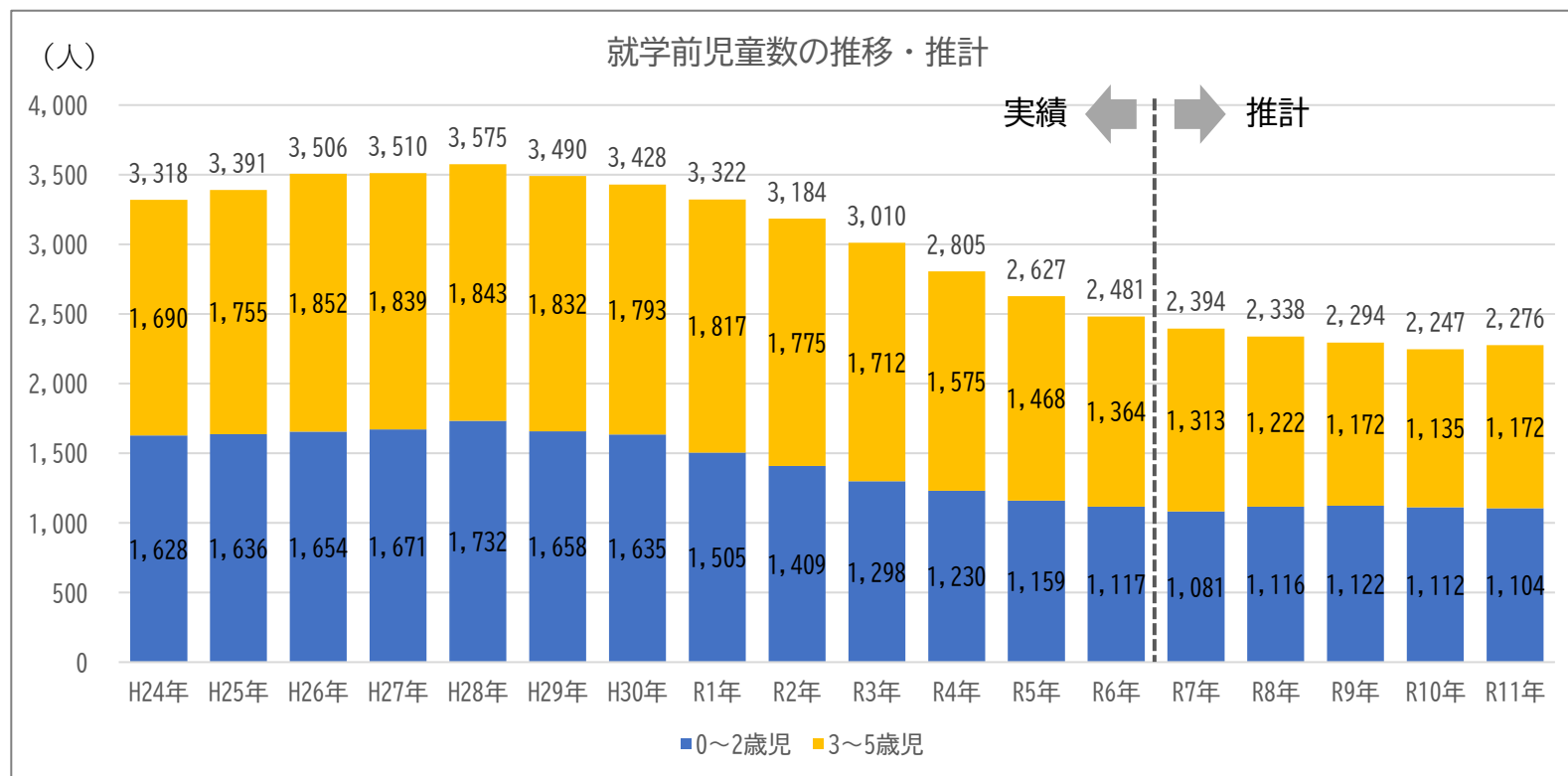
2. 計画の位置づけ・計画期間

計画	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
		(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	(2030)	(2031)	(2032)	(2033)	(2034)
常滑市公共施設等総合管理計画	公共施設等総合管理計画 (H28～約40年間)															
常滑市公共施設アクションプラン	前期計画 (H30～R6)						中期計画									
常滑市立保育園・こども園再編計画							再編計画									
常滑市子ども・子育て支援事業計画	第2期計画						第3期計画				次期計画					

第2章 本市における保育の現状

1. 就学前児童の推移及び推計

本市の就学前児童数（0歳児～5歳児）は、2016(平成28)年の3,575人をピークに減少傾向で推移しており、2024(令和6)年では2,481人と、2016(平成28)年に比べ、約31%（▲1,094人）も減少している。2025(令和7)年以降の推計についても、今後、就学前児童に影響するような人口の流入等がなければ、大幅な増加は見込めないことが推測される。



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）に基づく推計値

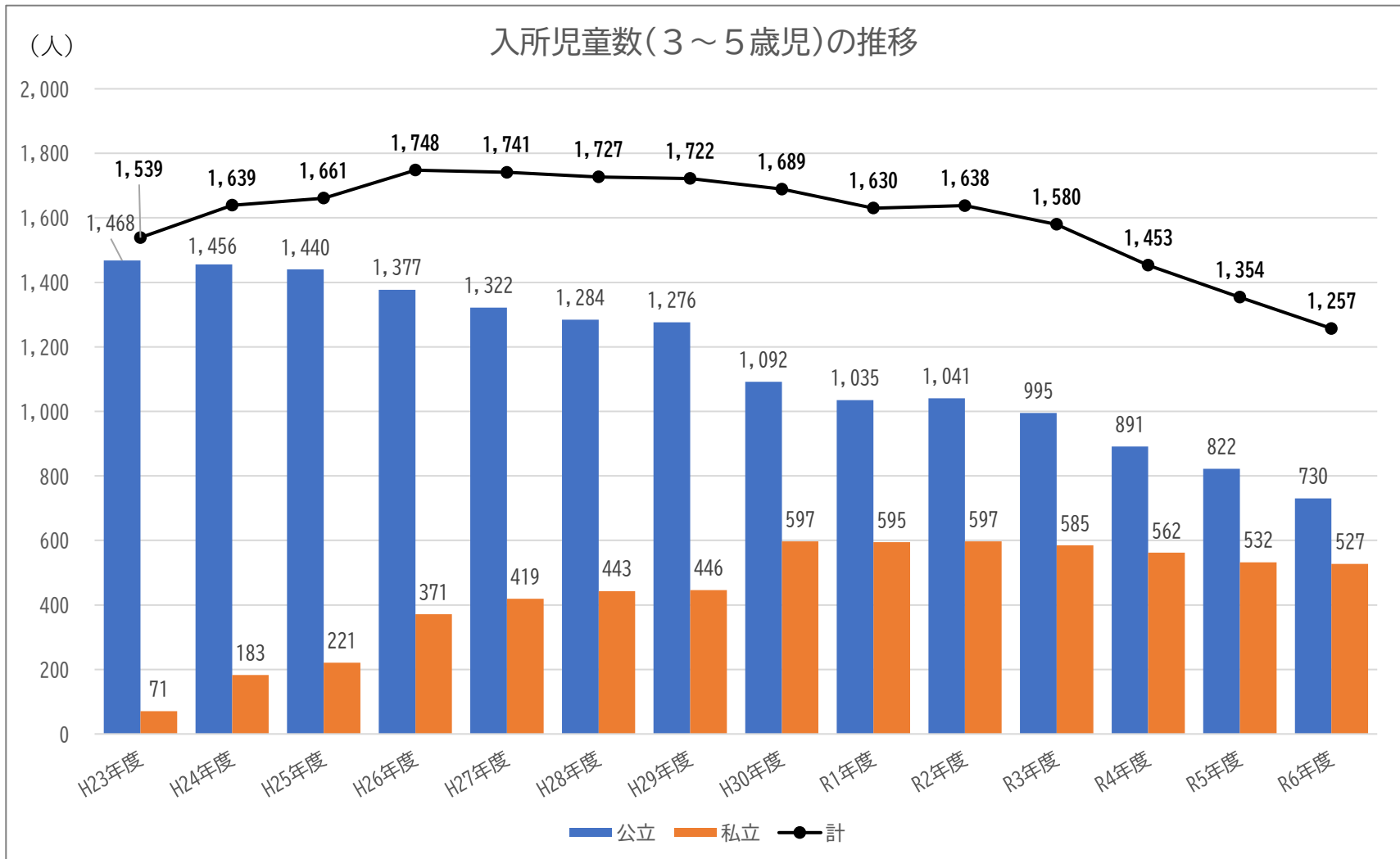
2. 市内保育施設の入所児童数（3～5歳児）及び施設数の推移

2009(平成21)年の公立園再編計画により公立園の数は減少し、民間園の数が増加した。
 幼児（3歳児～5歳児）の入所児童数は2017(平成29)年度以降減少してきており、特に2022(令和4)年度以降は大幅に減少している。

(単位：園、人)

年度	公立園		民間園		計		備考
	施設数	児童数	施設数	児童数	施設数	児童数	
H23	16	1,468	1	71	17	1,539	(公)西浦北・西浦中保育園 閉園 (民営化)
H24	14	1,456	2	183	16	1,639	(私)波の音こども園 開園 (公)小鈴谷保育園分園 閉園 (民営化)
H25	13	1,440	3	221	16	1,661	(私)SAKAI保育園 開園
H26	13	1,377	4	371	17	1,748	(私)風の丘こども園 開園
H27	13	1,322	4	419	17	1,741	
H28	13	1,284	4	443	17	1,727	
H29	13	1,276	4	446	17	1,722	(公)鬼崎南保育園 閉園 (民営化)
H30	12	1,092	5	597	17	1,689	(私)こども園あるこ 開園
R 1	12	1,035	5	595	17	1,630	
R 2	12	1,041	5	597	17	1,638	
R 3	12	995	5	585	17	1,580	
R 4	12	891	5	562	17	1,453	
R 5	12	822	5	532	17	1,354	(公)常滑幼稚園 閉園
R 6	11	730	6	527	17	1,257	(私)イシャルりんくう保育園 開園

*各年度3月31日現在の施設数・人数（R6年度のみ7月1日現在）



*各年度3月31日現在の人数 (R6年度のみ7月1日現在)

3. 公立園の入所状況（令和6年7月1日現在）

（単位：人）

中学校区	園名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
青 海	三和南保育園	1	9	11	23	27	21	92
	三和西保育園	2	14	18	27	21	25	107
	青海こども園	-	-	-	8	10	7	25
鬼 崎	鬼崎北保育園	2	9	12	23	24	29	99
	鬼崎中保育園	-	-	-	8	16	13	37
	鬼崎西保育園	1	11	17	24	22	31	106
常 滑	瀬木保育園	2	15	17	44	47	55	180
	常石保育園	-	-	-	14	18	28	60
	丸山保育園	2	8	17	23	30	35	115
南 陵	西浦南保育園	2	6	10	8	14	15	55
	小鈴谷保育園	0	4	3	15	15	10	47

第3章 公立園の課題

1. 就学前児童数の減少

就学前児童数の減少に伴い、一部で入所児童数の少ない園が出てきている。

2. 保育ニーズの変化

共働き世帯の増加や働き方の多様化など、社会状況の変化により、幼稚園の需要が低くなっている。

3. 集団生活

保育施設は、集団生活を通じて子どもの社会性、協調などを育む機会の場であり、複数のグループ（1グループあたり5人）を選択できるように1クラスの最少人数は10人程度が望ましいと考えるが、10人に満たない施設が出てきている。

4. 特別な支援が必要な児童への対応

特別な支援を必要とする児童の割合が増加傾向にあり、加配保育士の需要が増えてきている。

5. 正規職員の配置

低年齢児保育への需要の高まりや支援が必要な児童への保育など多様化する保育サービスに対応していくためには、正規職員の割合を向上させ、保育の質の維持向上を図る必要がある。

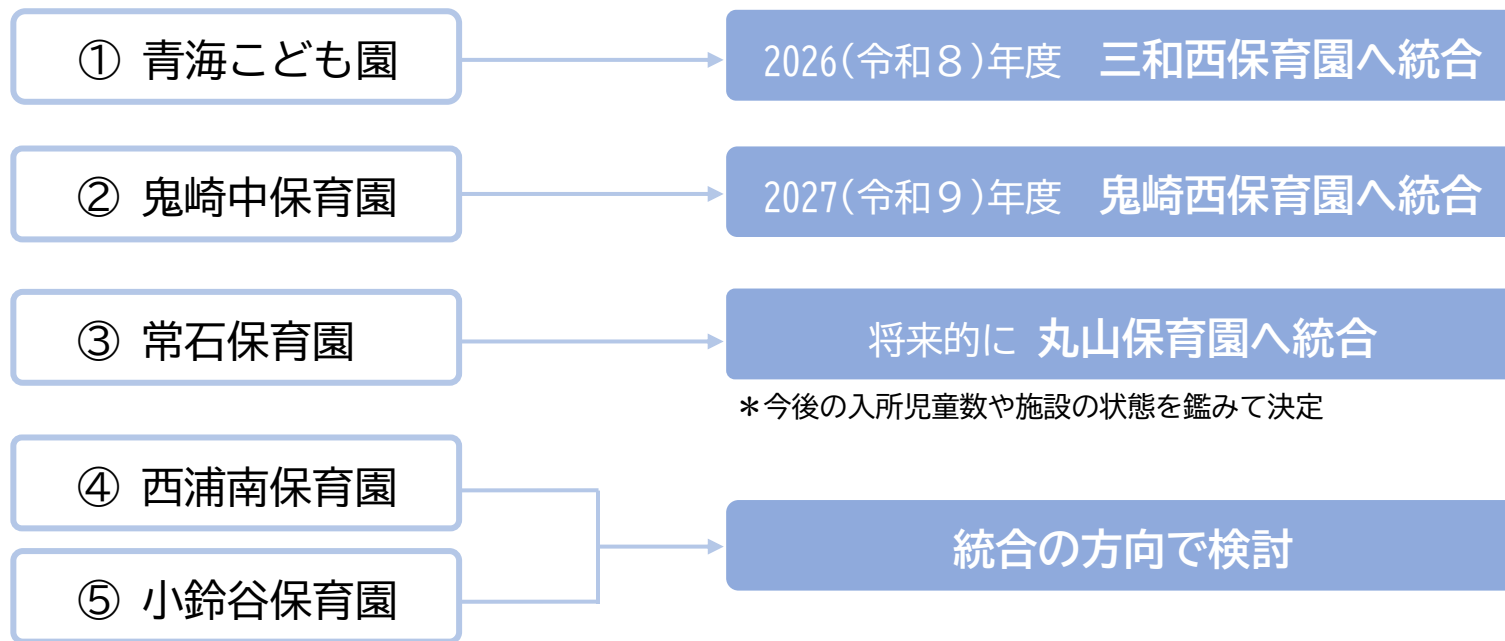
6. 施設の老朽化

鬼崎中保育園、常石保育園、西浦南保育園、小鈴谷保育園は施設の老朽化が進んでいる。

第4章 再編計画

保育サービスや保育の質を確保するため、公立園を再編する。

(1) 再編計画



- 青海こども園、鬼崎中保育園については、2024(令和6)年秋の一斉申込みの時期から新規の受入れを停止する。
- 兄弟が既に入所している、自宅から近いその他の理由により、鬼崎中保育園への入所を希望される場合には、閉園することを承知のうえで入所することも可能とする。
- 在園児への配慮として、統合先以外の公立園へ転園を希望される入所児童については、受入れ枠の範囲内で優先枠を確保するよう努める。

(2) 保育士の配置

- 公立園の再編により、保育士の配置の適正化を行い、各公立園の正規職員の割合を向上させ、運営の安定化を図る。
- 低年齢児保育について、各園で最低2人は正規職員が担任として従事できるよう、職員を確保する。また、正規職員のフリー保育士についても主任保育士を含め、各園最低2人確保できるような体制の整備を図る。
- 会計年度任用職員については、潜在保育士への呼びかけとともに、保育士を目指す学生の雇用を積極的に進める。

【目標】 低年齢児： 2027(令和9)年度までに達成
フリー： 2027(令和9)年度までに達成